仙台市の復旧状況

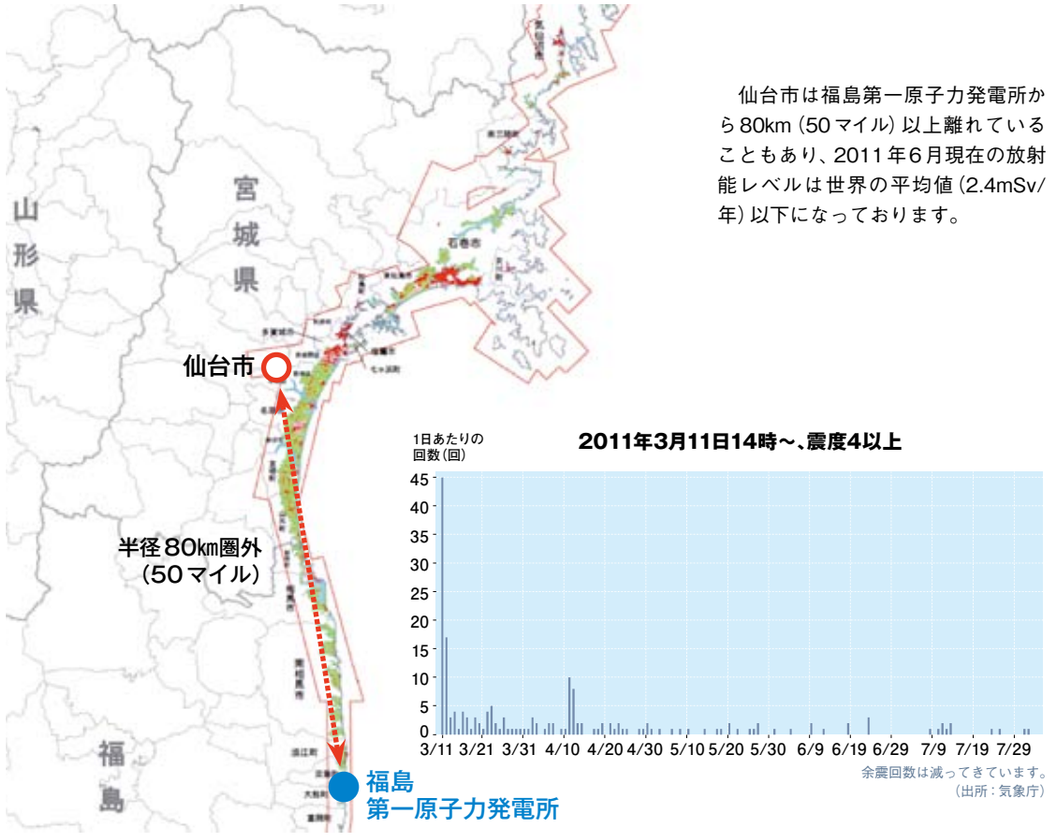
東北大学が所在している仙台市中心部では被災は軽微で、現在、インフラや生活環境（アパート、ホテル等）、公共交通機関も含めた交通環境の整備も整い、普段と変わらない生活が送れています。

東北新幹線は、9月23日より「特別ダイヤ」から震災前の「通常ダイヤ」で運転されております。

また、仙台空港も9月25日より全面再開しております。

新幹線も平常運転されている（仙台駅周辺）

明るくにぎわうサンモール一番町通（片平キャンパス付近）



（出所：国土地理院）

仙台市は福島第一原子力発電所から80km（50マイル）以上離れていることもあり、2011年6月現在の放射能レベルは世界の平均値（2.4mSv/年）以下になっております。

東北大学の支援活動

本学は、震災直後から、被災地域等への支援活動をはじめとし、さまざまな形で地域社会への貢献を続けています。

- ○地震の専門家としての情報発信
- ○地域医療を護る東北大学病院
- ○放射線を扱う専門家としての活動
  －放射線モニタリング－
- ○災害対応ロボット
- ○震災に関する情報発信とアーカイブ化
- ○学生の活力、奉仕精神
  －被災地でのボランティア活動－

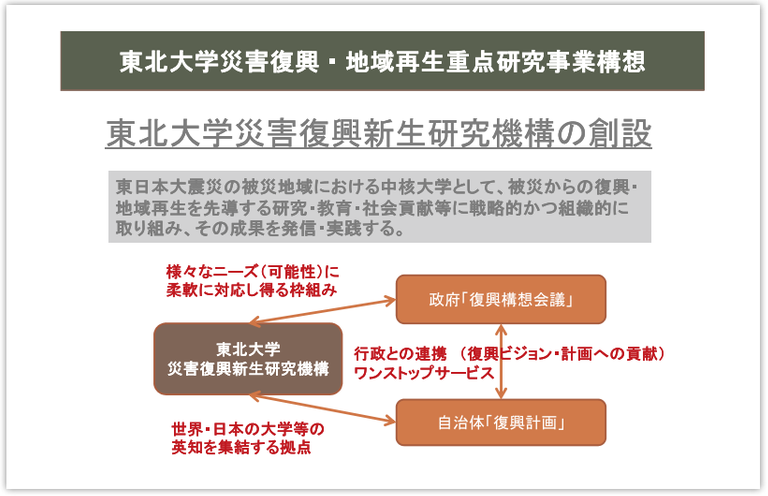
医療物資の搬送の様子

災害対応ロボット

個人宅を清掃する学生（宮城県亘理郡山元町）

東北大学災害復興･地域再生重点研究事業構想

本学は、未曾有の大震災を経験した大学として、また、世界リーディング・ユニバーシティとして人類社会に貢献していく本学の役目を果たしていくため、「東北大学災害復興・地域再生重点研究事業構想」を提示し、東北大学災害復興新生研究機構を設置しました。



本構想は、東北大学の英知を結集し、復興・地域再生を先導する研究・教育・社会貢献活動に戦略的・組織的に取り組み、その成果を発信・実践していくこと、新たな価値創造で次世代のために人と自然が共存し得る「安全・安心な社会づくり」に邁進していくことを通じて、地域、日本、そして人類社会の新生に貢献していくことを宣言するものです。